

科目コーディネータ (科目責任者)	実験動物医学研究部門 部門長				問合せ先	若井講師		
科目コーディネータ所属	実験動物医学研究部門				連絡先	内線5390		
講義場所	矢巾キャンパス 動物研究センター 2Fセミナー室							
区分等	区分	講義	回数	後期 8 回	単位	1	配当年次	1 ・ 2
担当教員	若井 淳 講師							
教育成果 (アウトカム)	教育成果						該当するディプロマポリシー	
	医歯薬学の教育・研究・試験に際して動物実験は必要不可欠であるといわれている。本講義を受講することで、動物実験に係る法規と倫理、安全衛生、各種実験動物の特性等、実験動物学の基本事項を理解し、それらの知識を統合することで、動物福祉の観点並びに科学的観点から適正と評価される動物実験計画を立案することができるようになる。さらに、実際に動物に触れることで、動物愛護の精神に即した動物の扱いが可能となり、実験動物倫理を深く理解することができる。						1、2	
達成目標	達成目標				対象講義			
	(1) 動物実験に係る法令や国際原則 (3R) を理解し、動物福祉に配慮した実験計画を立案できる。				(1) 、 (4)			
	(2) 主な実験動物について生物学的特性を理解し、研究の目的に適した動物種を合理的に選択できる。				(1)			
	(3) 動物実験施設の特徴を理解し、動物実験実施者としての利用上の心得を説明し実践できる。				(2) 、 (3)			
	(4) 代表的な実験動物であるマウスおよびラットに対する基本的な手技を理解し、実施できる。				(5) 、 (6) 、 (7) 、 (8)			
資格取得等	特になし。							
成績評価方法	受講票により総合的に評価する。成績は、ABCD (A:100～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59～0点) の4段階評価とし、ABC (60点以上) を合格とする (60点未満は再提出) 。							
特記事項	<履修に関する情報> 履修申請の際には事前相談に応じる。 各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 受講票の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。 講義資料、課題提出に関しては、Web Classを活用する。 受講後2週間以内に「受講票」を作成し、Web Classにアップロードすること。 なお、講義を欠席した場合やオンデマンド形式の講義、秋入学者については、e-learningシステムから講義動画を視聴し、別途指定する期限までにWeb Classにアップロードすること。 <当該科目に関連する実務経験の有無 有> 実験動物飼養保管施設における獣医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。							
教科書・参考書								

●講義日程

月日	時限	内容/到達目標	担当教員	講義場所
9月6日 (土)	1	(1) 実験動物学総論 1. 動物実験が医歯薬学の教育・研究・発展の上でなぜ必要か理解し、述べることができる。 2. 動物実験の国際原則(3R)を理解し、述べることができる。 3. 各種実験動物の特性を理解し、説明できる。 4. 動物実験に関する法律等を理解し、説明できる。	若井淳 (実験動物研究部門)	動物研究センター 2Fセミナー室
	2	(2) 動物研究センターの利用方法 1. 実験動物を飼育する施設の特徴を理解し、説明できる。 2. 動物研究センター内で禁止されている事項を理解し、述べることができる。	若井淳 (実験動物研究部門)	動物研究センター 2Fセミナー室
9月27日 (土)	1	(3) 動物研究センター施設見学 1. 動物研究センターに入る際の手指消毒や着替えを正しく理解し、実践できる。 2. 動物研究センター内の動線を理解し、正しい順序で移動できる。	若井淳 (実験動物研究部門)	動物研究センター 2Fセミナー室
	2	(4) 動物実験計画の立案 1. 動物実験計画書がなぜ必要か理解し、説明できる。 2. 必要最低限の動物時使用数の算出や麻酔の投与方法などを理解し、正確な記載ができる。 3. 科学的合理性と動物愛護の精神を理解し、両立した計画を立案できる。	若井淳 (実験動物研究部門)	動物研究センター 2Fセミナー室
10月4日 (土)	1	(5) マウスの取り扱い 1. マウスを正しく保定できる。 2. マウスへの腹腔内投与・皮下投与・経口投与を理解し、行うことができる。	若井淳 (実験動物研究部門)	動物研究センター 2Fセミナー室
	2	(6) マウスの解剖 1. マウスに正しい麻酔をかけられる。 2. マウスを解剖し、各臓器の説明ができる。	若井淳 (実験動物研究部門)	動物研究センター 2Fセミナー室
10月25日 (土)	1	(7) ラットの取り扱い 1. ラットを正しく保定できる。 2. ラットへの腹腔内投与・皮下投与・経口投与を理解し、行うことができる。	若井淳 (実験動物研究部門)	動物研究センター 2Fセミナー室
	2	(8) ラットの解剖 1. ラットに正しい麻酔をかけられる。 2. ラットを解剖し、各臓器の説明ができる。 3. マウスとの解剖学的差異を理解し、説明できる。	若井淳 (実験動物研究部門)	動物研究センター 2Fセミナー室